



はい /

Hi
こちら

岩手大学

岩手大学広報誌
2025. April

IWATE UNIVERSITY'S OFFICIAL NEWSLETTER

Vol. 55

CAMPUS LIFE

◆ - Club Activities - ◆

岩手大学クラブ活動紹介

01 軟式野球部 / Soft Baseball Club



野球に興味がある人ならだれでも歓迎！
楽しみながら全国大会出場を目指す
軟式野球部取材しました。

Q1. 軟式野球部はどのような部活ですか？

初心者から経験者まで約40人の部員が所属しており、楽しく野球に取り組んでいます。2024年は長野県と大阪府で開催された全国大会に2度出場し、それぞれで一勝することができました。指導者を置かず学生主体の部活のため、それぞれの都合に合わせて活動できます。経験はないけれど野球に興味がある、単純に野球を楽しみたい、全国大会を目指したいなど、野球と関わりたいならどんな人にもおすすめの部活です。



Q2. 普段の活動を教えてください。

授業がある期間は水、金、日曜の週3回を基本として活動しています。平日は大学のグラウンドで練習し、休日は練習試合をしたり、大会に参加することが多いです。授業やアルバイトで忙しい部員も多いので、練習も試合も無理なく参加できる人が集まって活動しています。

Q3. 合川さんが入部したきっかけは何ですか？

高校の先輩が所属していたことから興味を持ち、友達と見学に行ったことがきっかけです。先輩は優しい人ばかりで、楽しく野球ができそうだと感じて入部しました。

Q4. 軟式野球部の魅力を教えてください。

野球経験に関係なく、初心者から本格的に野球をしたい人まで幅広い人たちが野球に打ち込める環境が魅力です。また、2024年に出場した全国大会ではベスト8進出という結果を残しました。大会の自由時間には開催地である長野と大阪の観光も楽しみました。野球をしたい人、練習や試合以外の部分でも部活を楽しみたい人どちらも入部大歓迎です。



Q5. 今後の目標は何ですか？

奥羽地区優勝、そして、全国大会出場です！

取材に協力してくれた方

理工学部 3年
合川 拓真さん (岩手県立福岡高校出身)

02 漫画研究会ちほうじん / Manga Club



個性豊かな部員が集まって
作品づくりに励む
「漫画研究会ちほうじん」取材しました。

Q1. 漫画研究会ちほうじんはどのようなサークルですか？

漫画やイラストが好きな学生が集まり、作品を描いて漫画のルールや描き方を学んだり部誌を制作したりしています。また、外部からポスターデザイン等の依頼を受けることもあります。部員は学年の幅が広く、個性豊かな人がたくさんいて楽しいサークルです。

Q2. 普段はどのような活動をしていますか？

年に5回、部員の作品を掲載した部誌を制作します。次号で100号を迎える部誌は大学祭で販売しているため、学外の人にも手に取ってもらえます。

現在は週に2回の部室開放と部誌の編集作業が部員同士の主な交流の場です。熱心な人が多く、部員同士で少し会話するだけでも作品づくりの勉強になりますし、モチベーションもアップします。また、作品を持ち寄るだけでも活動に参加できるため、ワイワイとした雰囲気が苦手な人も自分のペースで取り組みます。そんなところも、ちほうじんの魅力です。



大学祭での部誌販売の様子



部員が集まり創作活動をする様子

Q3. 金野さんが参加したきっかけは何ですか？

私は以前から漫画やイラストを描くことが大好きだったので、岩手大学入学前からちほうじんに入りたいと考えていました。入学時のサークルオリエンテーションでもらった資料に載っていた漫画が可愛くて、部員も明るい人が多く話しやすい雰囲気だったので参加を決めました。

Q4. 活動のPRをお願いします！

漫画やイラストを描くのが好きな人や、これから描いてみたいという人、ぜひ入部してみませんか？「本を作る」という個人では実現が難しい夢も、他の部員と一緒に叶えることができます。実際に自分の作品を手にとってもらった時の喜びは、なかなか味わえないものだと感じています。また、毎年の大学祭では部誌やポストカード等の販売もしています。ぜひ気軽に遊びに来てください。



取材に協力してくれた方

人文社会科学部 2年
金野 愛里さん (岩手県立大東高校出身)



私が取材しました！

農学部 1年 太田はるなさん



サークル紹介ページ:

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/activity/club.html>



より多様な学びを実現するために、 岩手大学の学部・学科が新しくなりました!

岩手大学は、2025年4月から学部・学科が新しくなりました。獣医学部を新設し、人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部の5学部からなる総合大学として新たな歩みを始めています。また、理工学部はデータサイエンス応用力を育むプログラムを強化し、農学部は「食料」「生命」「環境」をキーワードに、実践的かつ総合的な教育を充実させました。より多様な学びを実現する岩手大学の新しい教育内容について紹介します。

これまで ~2025年 3月	人文社会科学部 200名	教育学部 160名	
理工学部 440名	化学・生命理工学科 90名	農学部 230名	植物生命科学科 40名
	化学コース		応用生物化学科 40名
	生命コース <small>新体制では農学部へ</small>		森林科学科 30名
	物理・材料理工学科 80名		食料生産環境学科 60名
	数理・物理コース		農村地域デザインコース
	マテリアルコース		食産業システム学コース
	システム創成工学科 270名		水産システム学コース
	電気電子通信コース		動物科学科 30名
	知能・メディア情報コース		共同獣医学科 30名
	機械科学コース		
社会基盤・環境コース			

※人文社会科学部、教育学部については今回の改組による変更はありません。

新体制 2025年 4月~	人文社会科学部 200名	教育学部 160名	
理工学部 414名	理工学科 414名	農学部 226名	食料農学科 50名
	化学コース		農学コース
	数理・物理コース		食品健康科学コース
	材料科学コース		生命科学科 51名
	知能情報コース		分子生物機能学コース
	クリエイティブ情報コース		分子生命医科学コース
	電気電子・情報通信コース		地域環境科学科 70名
	機械知能航空コース		革新農業コース
	社会基盤・環境工学コース		森林科学コース
			動物科学・水産科学科 55名
獣医学部 30名	共同獣医学科 30名	動物科学コース	
		水産システム学コース	

獣医学部の新設

これまで農学部の中にあつた共同獣医学科は、2025年4月より獣医学部として独立しました。

いま、世界中で、鳥インフルエンザや豚熱など様々な感染症の拡大が大きな問題となっています。こうした事態に対処できる獣医師の育成は喫緊の課題です。一方で、獣医師の領域では、犬や猫に代表される「伴侶動物臨床」の人気の高いという状況が続いています。このような社会情勢のなか、学部になることで、獣医学および獣医師養成をめぐる最新の教育を提供できるようになりました。新しい学部では、

地域社会のニーズに応えるために、牛や馬などの産業動物の獣医師育成に力を入れます。

岩手県は日本有数の畜産県です。岩手大学だからこそできる強みを生かした学びを提供します。

新設した獣医学部の主な特徴は次の3つです。

特徴① 産業動物臨床分野と家畜衛生、公衆衛生分野の強化

岩手県は日本有数の畜産県であり、岩手県のフィールドを活かして畜産を支える産業動物獣医師の養成を強化しました。また、現在、国や自治体の職員として、感染症への対処や検査場で働く獣医師が不足しています。獣医学部では家畜衛生、公衆衛生等の行政に関わる獣医師の教育も強化しました。

理工学部も変身

2025年4月から理工学部は1学科8コースとなりました。最近、急速に進化する人工知能(AI)が世界を大きく変えようとしている中で、理工学部では、データサイエンス応用力を育むための新しいプログラムを開始したほか、クリエイティブ情報コースを新設し、デジタルメディアやUI/UXデザイン分野で活躍できる力が身に付く教育も充実させています。また、これまでの3学科を1学科にすることにより、入学後に進級するコースを柔軟に選択できるようになりました。

より高度で多彩な情報システムを構築できる人材の育成を目指し、自然科学から応用技術までの融合的な教育、研究を実施します。

確かな専門性に加え、
データサイエンス応用力を育む
新たな教育プログラムを提供

① 3学科8コースから1学科8コースへ再編/2年次コース選択の柔軟化

② デジタルメディア、UX/UIデザイン分野で活躍する人材育成を目指す「クリエイティブ情報コース」を新設

③ データサイエンス応用力を養成するデータサイエンス応用副プログラムの導入

④ 幅広い学びが可能となる初年次教育プログラムの導入

新しい農学部

岩手大学は、変化する時代に合わせ、大学全体として、ライフサイエンス分野に力を入れています。その一環として、農学部では、農学の基盤である「食料」「生命」「環境」の3つの領域を中心に、学科・コースを4学科8コースへと大きくリニューアルしました。近年、気候変動や環境の変化や農林水産業を取り巻く情勢の変化などに対応できるようにそれぞれの専門分野に加え、農学を広く横断的に学ぶことで「農学の総合知」を身に付けることができます。

農林水産業が盛んなこ岩手県で、国内外の社会課題を解決できる、視野を広く持った人材育成を実施します。

「食料」「生命」「環境」を
キーワードに、実践的かつ
総合的な学びを提供

① 「食料」「生命」「環境」をキーワードとした学科・コースの再編

② 農学全体を俯瞰できる「農学の総合知」を養う実践的教育の実施

③ ライフサイエンス分野の強化・充実



① 産業動物臨床分野と家畜衛生・公衆衛生分野の充実

日本有数の畜産県に立地する岩手大学の強みを活かした教育
高度獣医療の提供

② 伴侶動物臨床分野の充実

地域と連携した高度な診断医療技術の提供と教育

③ 国際通用性を備えた人材の養成

国際基準を目指した学部カリキュラムの改善

・高品質な獣医療サービスを提供するために必要な獣医学生が卒業時に身につけるべき最低限の資質 (Day One Competency) をバランス良く習得
・地域の要請に応えることが可能な国際通用性のある獣医学教育を実現

特徴② 地域と連携した伴侶動物臨床分野の充実

現在、犬や猫などを家族の一員とする家庭が増えています。獣医学部では、地域と連携して実践的な診療知識と高度な診断医療技術を提供する教育プログラムを充実しました。

特徴③ 国際標準を目指した学部カリキュラムの改善

昨今、獣医学における教育理念は変化し、国際通用性のある技術や知識が求められるようになっています。獣医学部では「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」に加え、国際通用性に対応する教育内容を整備しました。実際の臨床現場に携わる機会を増やすことで、経験や柔軟な対応力が身に付きます。

岩手大学はこれからも誰一人取り残さない持続可能な社会の実現のために、学生たちの主体的に学び成長する力(学生力)を高め、予測不能な時代を力強く生きる力を持ったレジリエントな「人づくり」に取り組みます。今回新しくなった学部・学科の詳細は岩手大学HPにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

研究紹介

人文社会科学部 人間文化課程 准教授 神野 知恵 (かみの・ちえ)

日韓をつなぐ芸能文化研究

研究テーマ

岩手大学に
韓国文化学研究室誕生！

私は人文社会科学部に新設された「韓国文化学研究室」の担当教員として、2024年2月に着任しました。本格的な授業は2025年4月から始まります。この研究室では、韓国の伝統文化や現代文化をテーマに、地域と国際社会とのつながりを深めることを目指しています。これまで私は、韓国の伝統芸能「農楽」を対象として、地域文化の変遷や次世代への継承をテーマに研究してきました。農楽は、豊作や豊漁を祈る村祭りや演じられ、共同体の絆を強める役割を担ってきました。日本の郷土芸能とも多くの共通点があります。近年は深刻な後継者不足に直面していますが、一方で、地域の外に開かれた教育活動や、舞台での創作活動が積極的に行われており、日本でも学ぶべき点が多く見られます。こうした取り組みの日韓比較を行いながら、地域文化を未来へつなぐ方法を模索していきます。

学びの目標

他者の文化を理解するためには、言語の学習だけでなく、体を使って五感で学ぶ体験が重要です。2024年度には、研究室のプレオープンイベントとして、国立民族学博物館の貸出学習キット「みんぱく」を活用し、韓国文化の体験型ワークショップを開催しました。伝統的なコマまわしや衣装の着付けなどを通じて、映像や教科書だけでは得られない「感覚」を学生たちや一般市民に提供しました。

今後も、実践的なワークショップを行いながら、日韓比較研究に取り組んでいく予定です。このような体験を通じて、学生たちが文化の違いや共通点を感じ取り、それを自らの言葉で発信する力を身につけることを目指していきます。

岩手、韓国、そして世界へ

他者を知るためには、自分たちの文化を理解することが不可欠です。研究室では、岩手の伝統文化や観光地について調べ、そ

れを韓国語で発信できる人材の育成を目指します。また、岩手をはじめ東北地方に住む外国人住民と、郷土芸能や食文化などをテーマとした交流を行い、芸能のコラボレーション公演の企画などを通じて、相互理解を深める取り組みを検討しています。岩手から世界へとつながる広い視野を持ち、人々との出会いを大切にしながら、学びを深めていきたいと考えています。



韓国文化体験ワークショップの開催（2024年12月）

研究紹介

農学部 食料農学科 准教授 松波 麻耶 (まつなみ・まや)

食料の安定供給と環境保全の両立に向けて

研究テーマ

食料生産と環境負荷のジレンマ

みなさんが日々主食として口にするお米（イネ）やコムギ、そして食用・飼料・デンプン資源として工業利用もできるトウモロコシ。世界三大穀物と呼ばれるこれらのイネ科作物たちは、まさに人類が生きるためのエネルギー源となっています。

作物を栽培するためには、作物の栄養となる肥料が欠かせません。農作物の多くは、窒素やリン、カリウムなどを含む化学肥料を使って栽培されます。世界三大穀物はその農耕地が広大で収穫量も多いため、多量の化学肥料が必要です。しかし、農耕地に施与された肥料成分の多くは、植物の生長に使われず、温室効果ガスや水質汚染の原因として農耕地の外に流失してしまいます。その割合は高い場合には50%以上になることもあります。せっかく与えた肥料が作物に使われず、しかも環境汚染の原因になっているとは、とても残念なことです。とはいえ、単純に肥料を減らしてしまうと、作物が効率よく栄養を得ること

が出来ずに、収穫量が減ってしまうこともあり、どうやってこのジレンマを解決していくかが大きな課題となっています。

「Hidden half」をみつめて

私たちの研究室では、イネやコムギの栽培において、生産性と環境負荷軽減を両立する技術開発や品種育成を目標に研究を行っています。特に注目しているのが根の



土壌から洗い出したイネの根

機能です。根は土壌の中にあるために、普段その存在や役割について目にするのも、思いを寄せることもないでしょう。しかし根は「Hidden half（隠れた半分）」と言われ、水や養分を吸収したり、地上部の支えになったり、微生物との共生関係を助けたり、まさに縁の下の力持ちです。私たちは環境負荷を軽減できる肥料の種類や与え方、最大限の効率で肥料を獲得する根の形態や生理機能などを明らかにすることで、肥料の投入量を減らしても高い生産性を維持できるような作物生産に貢献したいと考えています。根を掘り出して、その構造や機能を明らかにするのは地道な作業の連続です。しかし、このHidden halfを掘り葉掘り調べるのが、持続的な食料生産に繋がっていくことを信じています。



センパイ紹介 Alumni Interview



PROFILE

土木機械職

めぐろ こうた
目黒 康大 さん

宮城県仙台市生まれ
2020年3月 総合科学研究科 理工学専攻
機械・航空宇宙コース 卒業
電源開発株式会社(J-POWER) 土木機械職

Q① 印象に残っている学生時代の思い出を教えてください

学生時代は「ツキノワグマ研究会」というクマの痕跡を調査するサークルに所属しており、そこでの活動・経験が一番の思い出です。サークル活動の中では、地域共生や環境問題について学ぶ機会がありました。社会人になってダム工事の関係で河川環境に関わることがありますが、その時に得た知見が今も役に立っていると感じることが多くあります。

Q② 現在の仕事を選んだきっかけは何ですか？

私は「J-POWER」という電力会社に勤めています。電力業界に興味を持ったきっかけは、中学3年生の時に発生した東日本大震災で長期間の停電を経験し、その時にインフラの重要性を改めて実感したことです。また、特定の地域だけでなく、様々な場所で多様な経験をしてみたいという思いもあり、全国や海外に発電設備を保有するJ-POWERに就職を決めました。

Q③ 仕事のやりがいや今後の目標を教えてください。

単純ですが自分の仕事ぶりを認めてもらえた時が一番嬉しいです。以前、高知県でダム下流に清水を供給するための設備工事を担当していました。県や地元の方々や協同で実施する大きなプロジェクトで、上手く仕事が進まず落ち込むこともありましたが、そんななか、地域住民へ向けた工事進捗の説明会の際に、漁業協同組合の方々から「工事を進めてくれてありがたい」と感謝の言葉をいただき、とても嬉しかったことを今でも覚えています。

現在は国内だけでなく海外の案件も担当しており、今後はそれらの仕事もこなしていけるよう一層精進していきたいと考えています。

Q④ 岩大生へメッセージをお願いします！

ぜひ「今」という時間を大切に日々を過ごしてください。私自身、改めて大学時代を振り返ってみると、沢山あった時間でもっと様々なことを経験しておけばよかったと感じます。勉学ももちろんですが、いろんなイベントへ参加することや多様な人と交流することも大切な経験です。どんな経験も将来の糧になると思いますので、臆することなくどんどんチャレンジしてみてください。皆様のご活躍を期待しています！

TOPICS トピックス

デジタル修了証「オープンバッジ」の新しいデザインが増えました！

岩手大学では、令和5年度より、岩手大学が実施する学習プログラム等の修了者に対し、デジタル修了証である「オープンバッジ」を発行しています。オープンバッジとは、取得した知識やスキルを証明する国際的なデジタル証明書です。今後の学習計画やキャリア設計、就職活動での自己アピール・ツールとして活用することができます。

2024年夏にはオープンバッジの新しいデザインが増えました。新しいデザインは学内カンパニー「+DESIGN」の学生が担当しました。



新オープンバッジ

「+DESIGN」の学生と小川学長

釜石キャンパス学生団体が考案したメニューを食堂で提供

日本の魚食文化の理解と普及のために活動する岩手大学釜石キャンパスの学生団体「同じ釜の匂いを食べる」が、釜石はまゆりサクラマスを使用したメニューを開発しました。開発したのは「サクラマスの塩麴焼き」と「サクラマスのフライ」で、釜石湾漁協平田女性部の協力を得て実現したものです。2025年1月20日(月)～1月24日(金)には、本学の食堂でも提供されました。



サクラマスの塩麴焼き

サクラマスのフライ

「同じ釜の匂いを食べる」の学生と釜石湾漁協平田女性部のメンバー

Information

岩手大学公式ソーシャルメディア

岩手大学ではさまざまな情報をソーシャルメディアで発信しています。ぜひチェックしてください。

<p>岩手大学公式 X @iwate_Univ_PR</p>	<p>小川学長 X @iwateu_gakucho</p>
<p>岩手大学公式 YouTube チャンネル</p>	<p>岩手大学のソーシャルメディアアカウント一覧</p>

岩手大学教員によるミニ講義を公開中！

岩手大学教員のわくわくする学問を「夢ナビ」のミニ動画で紹介しています。自分の興味・関心につながる学問への可能性をぜひ広げてください。



プッシュ通知で岩手大学の最新情報を逃さずキャッチ！

岩手大学のイベントや受験生向けのお知らせなどをスマホアプリのプッシュ通知で受け取れるサービスをはじめました。高校生、卒業生、地域の方など、アプリを登録して、岩手大学の活動をぜひチェックしてください。



岩手大学 80 周年記念事業のご案内

岩手大学は2029年に創立80周年を迎えます。2024年7月、創立80周年に向けた8つのプロジェクトがスタートしました。プロジェクトの詳細は記念サイトに掲載しています。創立80周年記念事業へのご寄附に関するご質問は岩手大学基金室まで、お気軽にお問い合わせください。



編集後記

Editorial Note

今回は、課外活動団体の紹介に加えて、2025年度から新設される学部・学科の紹介がありました。理工学部や農学部の再編に加え、新設される獣医学部には筆者も非常に注目しています。獣医学部を有する国立大学は非常に限られているため、岩手大学の新たな魅力になると確信しています。なお、筆者は都合がつかず、食堂でサクラマスのメニューを食べることができませんでした。今年度再びチャンスがあれば、ぜひ足を運びたいと考えています。



岩手大学広報誌 Vol.55

2025年4月 岩手大学広報室発行
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp https://www.iwate-u.ac.jp/

本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。